



泉殿宮神楽獅子  
(泉殿宮神楽獅子保存会)



権六おどり  
(山田地区権六おどり保存会)



山田伊射奈岐神社太鼓神輿  
(山田伊射奈岐神社太鼓神輿保存会)



江坂素盞鳴尊神社太鼓御輿神事  
(江坂連合自治会)

## 未来につたえる文化財

先人たちによって現代につたえられた文化財は、所有者や保存団体等の方々の努力とともに、多くの方々のご理解とご協力によって守られています。しかしながら近年、様々な社会状況の変化によって、文化財保護を取り巻く環境は厳しくなっています。

そのような状況のもと、長い歴史の中で生まれ、育まれ、守り伝えられてきた貴重な歴史的・文化的遺産を未来へつたえていくため、吹田市が行っている文化財保護の取り組みやその成果について紹介します。



吉志部神社のどんじ  
(吉志部神社どんじ保存会)

### 〔表紙写真〕吹田市の無形民俗文化財

吹田市には、1つの市指定無形民俗文化財および4つの市登録無形民俗文化財があり、各保護団体はその伝承と後継者育成に努めています。吹田市では、これらの文化財の伝承者の育成や用具などの修理・新調、記録の作成などの事業に対して補助金の交付を行っています。

## 文化財保護の取り組み

### 文化財の保存・管理・公開・活用

#### 文化財調査

市内に残る文化財の保護を目的として、文化財の所在状況や実態を把握するための学術的な調査を行います。また、開発等に伴い、文化財がその歴史性や学術的評価が行われないまま滅失する事態も多いことから、保護の方策や方針を得る必要がある場合に、緊急調査を実施しています。

#### 文化財保存事業補助金の交付

文化財保護法、大阪府文化財保護条例及び市文化財保護条例による指定・登録を受けた文化財について、その保存と活用を図ることを目的に、保存・修理事業に対して補助金を交付しています。

#### 文化財の管理・公開

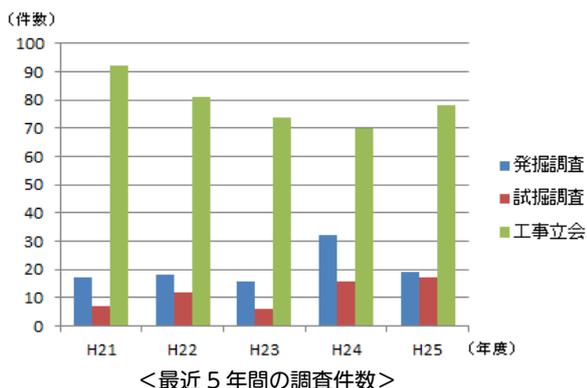
岸部北5丁目に所在する国史跡七尾瓦窯跡、岸部北4丁目に所在する国史跡吉志部瓦窯跡、府史跡吉志部瓦窯跡（工房跡）、吹田34号須恵器窯跡および垂水町1丁目に所在する雉子巖碑について、管理を行うとともに一般公開しています（常時見学可）。

#### 文化財の普及・啓発

文化財の啓発資料の作成・頒布、市内の遺跡等の文化財所在地への文化財説明板の設置等を行っています。

#### 埋蔵文化財の調査

吹田市内には現在150か所の遺跡（埋蔵文化財）があります。遺跡の中で開発等が行われると、遺跡が壊され失われてしまう恐れがあります。そこで、埋蔵文化財包蔵地や周辺地で土木工事が行われる際、遺跡に影響を与える恐れがあると判断される場合には発掘調査・試掘調査、遺跡に影響を与えないと予測される場合には埋蔵文化財出土の有無を掘削工事工程の中で確認する工事立会を実施します。



### 旧西尾家住宅・旧中西家住宅の保存・活用

吹田市には、国の重要文化財に指定されている旧西尾家住宅、国の登録有形文化財に登録されており、かつ市指定有形文化財である旧中西家住宅があり、その保存管理及び活用を行っています。  
※ いずれも庭園が国の登録記念物に登録されています。

#### 旧西尾家住宅（内本町2丁目）

西尾家は、江戸時代に吹田村の仙洞御料庄屋をつとめた家柄で、現在の屋敷は明治から昭和初期にかけて整備が行われました。



数寄屋風を意識した主屋、茶道藪内家の指導により建築された茶室、建築家武田五一が和洋折衷の意匠を試みた離れなど、多彩な建物からなります。平成17年10月より「旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）」として一般公開しています。

#### 旧中西家住宅（岸部中4丁目）



中西家は、江戸時代に吉志部郷東村の庄屋及び島下郡内の淀藩領の村々を束ねる大庄屋をつとめた家柄です。

現在の主屋は文政9（1826）年に建造されたもので、立派な屋敷構えがのこります。平成19年に中西家よりご寄付いただき、平成20年2月より「旧中西家住宅（吹田吉志部文人墨客迎賓館）」として一般公開しています（予約制）。

国や自治体によって指定を受けているものだけが「文化財」ではありません。襖の下張りに利用された古文書など、身近にある意外なものから地域の歴史や文化が明らかとなることもあります。これらもまた地域にとってかけがえのない歴史的・文化的な財産です。

脈々と継承されてきた地域遺産が、その存在や価値を見出されないまま失われていくことを防ぐためにも、文化財保護の取り組みにあたっては、行政職員や専門家だけでなく、地域の皆様のご理解とご協力が不可欠です。

地域の宝を守り、活かし、未来へつたえるための本市の取り組みに対し、今後ともご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

## 上の川水路跡の調査について

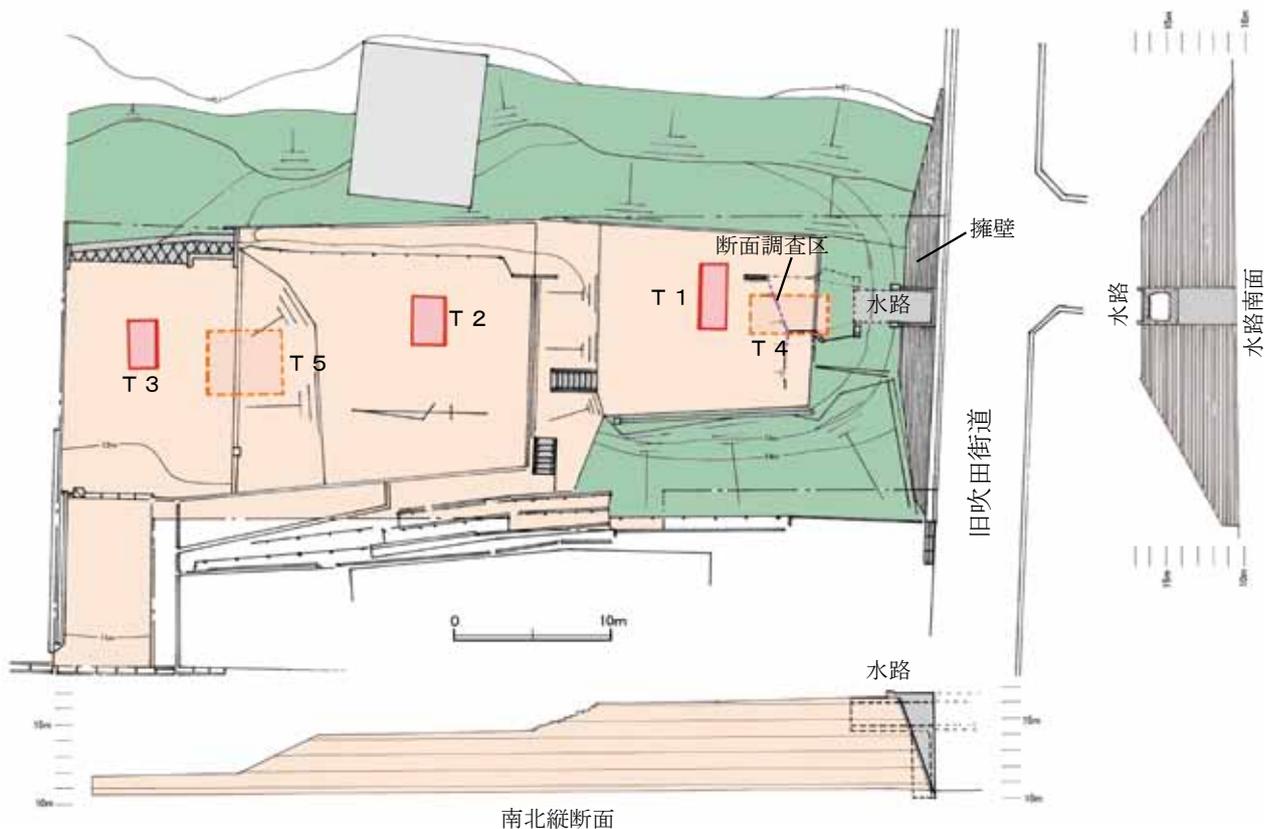
垂水町1丁目<sup>たるみちょう いちごう</sup>に所在する上の川<sup>かみ</sup>水路跡は、近代の土木遺構で、堤防と水路の一部が残されていました。もともと上の川は、現流路<sup>げんりゅうろ</sup>よりも西方を流れ、現在の合流点よりも南側の金田町<sup>かねでんちょう</sup>付近で糸田川に合流していました。当地を東西方向に横断する吹田街道は上の川と交差するところで堤防を斜めに上がり、川を橋で渡るというルートでしたが、上の川は砂礫<sup>されき</sup>の堆積<sup>たいせき</sup>により川底が周辺の平坦地よりも高くなった天井川で、大正初め頃に鉄筋コンクリート製の高樋を渡し、堤防の下をくぐる形に改修されました。両川は千里丘陵の開発が一因ともいわれる氾濫<sup>はんらん</sup>を繰り返し、特に昭和15(1940)年7月に豪雨による洪水で上の川と糸田川の堤防が8カ所も切れ、垂水<sup>ゆかうえ</sup>一帯で450戸以上の家屋が床上まで水に浸かるという惨事となったため、昭和16～17年度に上の川及び糸田川の流路変更等の大規模な改修工事が行われました。それ以降、廃止された上の川の堤防は大部分が撤去され、その一部が旧吹田街道沿いに残されていました。



水路の内部（南から）

今回、当地に共同住宅の建築が計画されましたが、ここは旧石器～中世の複合遺跡である垂水遺跡に当たることから、平成25年8月～平成26年3月に堤防と水路部分を対象に調査を行った結果、新たな知見を得ることができましたので報告します。

(6・7頁につづく)



南北縦断面

上の川水路跡全体図

## 1 泉殿宮【撰】



現在の本殿は三間社流造で、建築の様式から境内の石灯籠にある明暦3（1657）年頃の建築と考えられます。

神崎川の近くにある当宮の御旅所には、境内には樹齢700余年の棕の枯木・通称「大ノ木」が残ります。

## 2 常光円満寺【撰】（※本尊は秘仏です）



真言宗の寺院で、残された記録から、南北朝～室町時代には上層武士の庇護を受けたことがわかります。境内には、寛永17（1640）年の灯籠などが残ります。

## 3 旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）



明治時代から昭和初頭にかけて建築し整備されました。関西地方における都市近郊の大型和風建築として高く評価され、平成21年12月8日に国の重要文化財に指定されました。また、平成25年8月1日に庭園が国の登録記念物に登録されました。

## 4 大雄院



曹洞宗の寺院で、江戸時代に吹田村を治めた旗本柘植正時の院号が「大雄院」であることから、その菩提を弔うため、名称が大雄院と改められたと考えられています。

境内には柘植氏代々の墓碑が建っています。

## 5 旧役場跡



江戸時代の吹田村は、大きく仙洞御料〔宝永3（1706）年までは幕府領〕、旗本竹中領、旗本柘植領と三つに分かれていました。竹中領には「陣屋」と称する支配所が設けられ、その地は明治時代に旧吹田の村・町役場となり、昭和15（1940）年には吹田市役所が置かれました。

## 6 吹田歴史文化まちづくりセンター（浜屋敷）



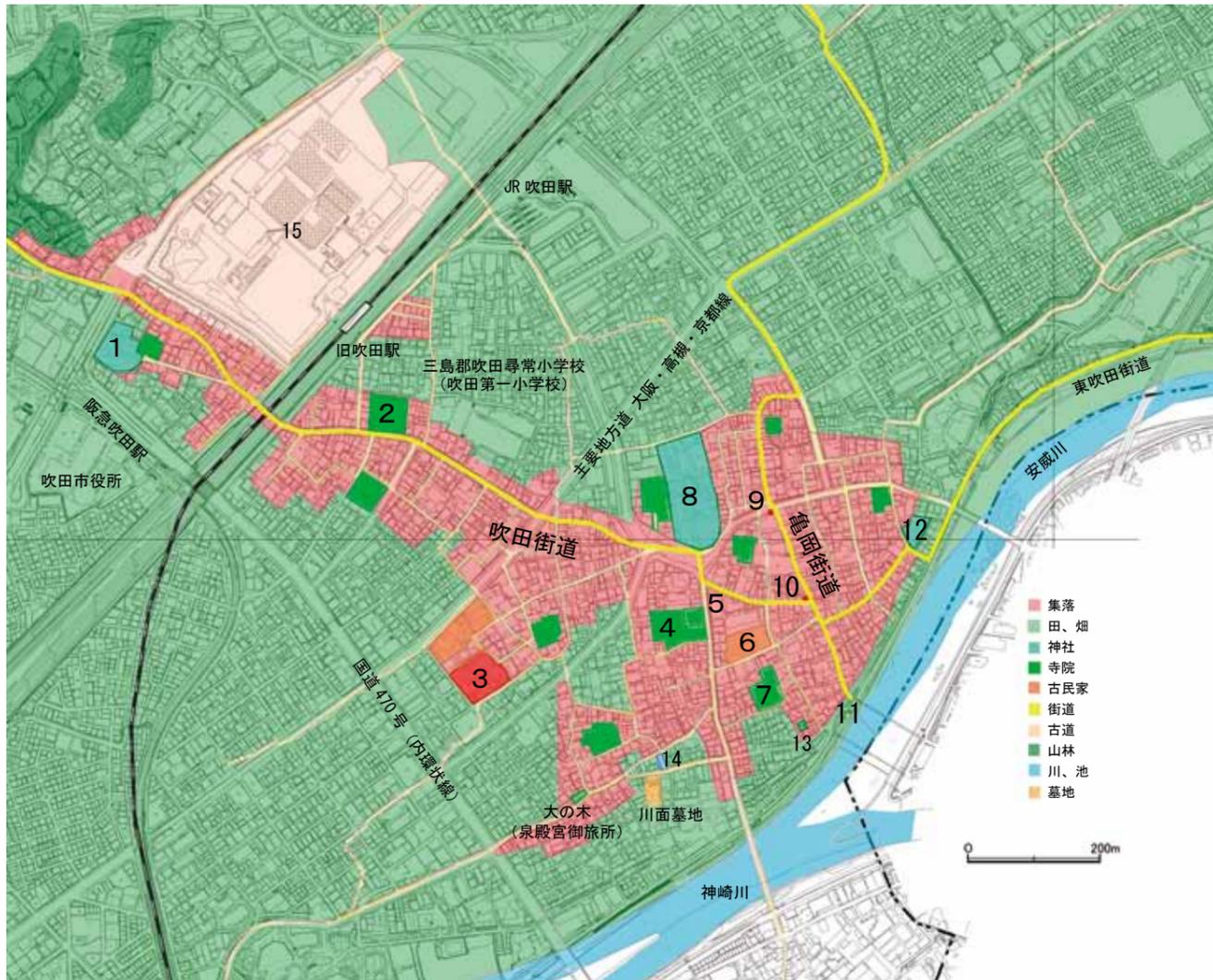
江戸時代後期に吹田村の庄屋をつとめていた家の旧屋敷です。平成12年5月に吹田市が寄付を受け、歴史と文化のまちづくりに関わる文化活動や交流の場として活用するため、改修整備されました。

市内に残るだんじりを年1回入れ替え、展示しています。

## 吹田歴史探訪～旧吹田地域～

旧吹田地域は、ほぼ全域が市街化した吹田市にあって、歴史的建造物が集中して残る地域の一つです。近世～近代にかけての大規模な住宅建築や屋敷構え、江戸時代に建てられた神社や寺院が多数所在します。またかつての集落内には古地図に描かれた道とぴったり重なる道が多く残されており、往時の姿を偲ばせます。

【撰】：江戸時代に刊行された観光案内書である「撰津名所図会」〔寛政8～10（1796～1798）年刊。秋里籬庵著〕にて紹介されています。



## 旧吹田地域の歴史遺産

（当図は現代の地形図に明治末の水田、集落等の情報を重ねて作成したものです）

### 亀岡街道と吹田街道

亀岡街道は、『大阪府誌』（明治36年刊）によると大阪の高麗橋を起点とし、吹田の渡から吹田市域をほぼ南北に通じ、京都の亀岡までを結ぶ旧街道です。大坂と北摂・京を結ぶ重要な街道で、かつては荷を積んだ馬や人の往来でにぎわっていたといわれています。この亀岡街道から、南高浜町で分岐し、市域南部をほぼ東西に通じ、能勢街道に通じるのが吹田街道です。吹田村の集落は、主にこの2つの街道沿いに形成されていました。

### 13 小女郎稲荷【撰】

明治の記録には観音寺の鎮守社とあります。「撰津名所図会」には「小女郎狐祠」との名称で紹介されています。

### 14 涙の池跡【撰】

「血の池」とも呼ばれる小さな池がありました。この池にまつわる多くの言い伝えがあります。

### 15 大阪麦酒吹田村醸造所

現アサヒビール吹田工場。明治24（1891）年に醸造棟が完成、その12月に製造が開始されました。

## 7 観音寺【撰】（※仏像等は一般公開されていません）



浄土宗（もと法相宗）の寺院で、行基がこの地で梅檀の木を得て試みに聖観音を刻み、これを本尊として創建されたと伝えています。現在この観音像は秘仏（33年に1度だけ開帳）となっています。

## 8 高浜神社【撰】



古来、吹田村の中心的な神社で、広い境内に本殿・幣殿・拝殿・神輿庫・境内末社などがあります。

現本殿は総檜の大型の三間社流造で、元禄6（1693）年に再建されています。

## 9 六地藏道標



江戸時代の道標で、亀岡街道から片山村へ通じる道が分岐するところに建てられていました。明治時代に再利用され、現在に至ります。

## 10 南町道標



江戸時代の道標で、亀岡街道筋と吹田街道の分岐点に建てられています。

## 11 吹田の渡【撰】

延暦4（785）年、三国川（神崎川）が淀川と接続され、京都と西国をつなぐ水路としての役割を担うようになると、吹田は交通の要衝として重要視され、江戸時代には淀川水運の要所として発展しました。

江戸時代には渡し舟によって神崎川を渡っており、吹田の渡と呼ばれました。吹田の渡は大坂と北摂方面をつなぐ渡として重要視され、「撰津名所図会」には挿絵付きで紹介されています。

この渡は有料の高浜橋が架けられてその主要な役割を終えました。

## 12 旧春日神社



本殿は一間社流造で、17世紀前期に遡る部材が残ります。

創立は詳らかではありませんが、中世末期頃には創立されていたとみられます。

江戸時代は当地域の鎮守社でしたが、現在は高浜神社の御旅所となっています。

（西本安秀・中岡宏美）

(3頁よりつづき)

調査では、まず現状の記録作業が行われました。現存の堤防は南北長約21m、東西幅約28m、高さ約6mを測り、その南端部に擁壁と鉄筋コンクリートの構造物が残ります。その構造物は箱型を呈し、旧吹田街道の道路面から約3.5m上の位置にあり、南北現存長5.2m、幅2.4m、高さ2.6mを測ります。その内部は空洞で現存長5.2m、幅約2m、高さ約1.4mを測ります。内面には水平方向にコンクリートを流し込んだパネル板(幅16~18cm)の痕跡が残っています。また、堤防断面部分には30cm×30cm大の四角の荒加工された花崗岩を用いた擁壁が築かれています。

埋蔵文化財の調査では堤防部分にT1~5の調査区を設定し、その内、T1では、大正初期の護岸施設はみられなかったものの、水平からやや斜めに堆積する砂層が認められ、川の堆積層の一部と判断されます。また、後日行われた断面調査では、最下部に砂利を敷いた鉄筋コンクリート壁(厚さ約18cm)が両岸で確認され、大正初めに改修された護岸の一部とみられます。

以上のように、鉄筋コンクリート製の高樋と堤防の構造も部分的ですが、新たな知見がありました。上の川の堤防内側に高樋付近では鉄筋コンクリートの護岸がなされたようですが、その他ではコンクリート壁等の顕著な護岸工事はされていなかったようです。近代の土木工事の様相の一端がわかり、貴重な成果といえます。

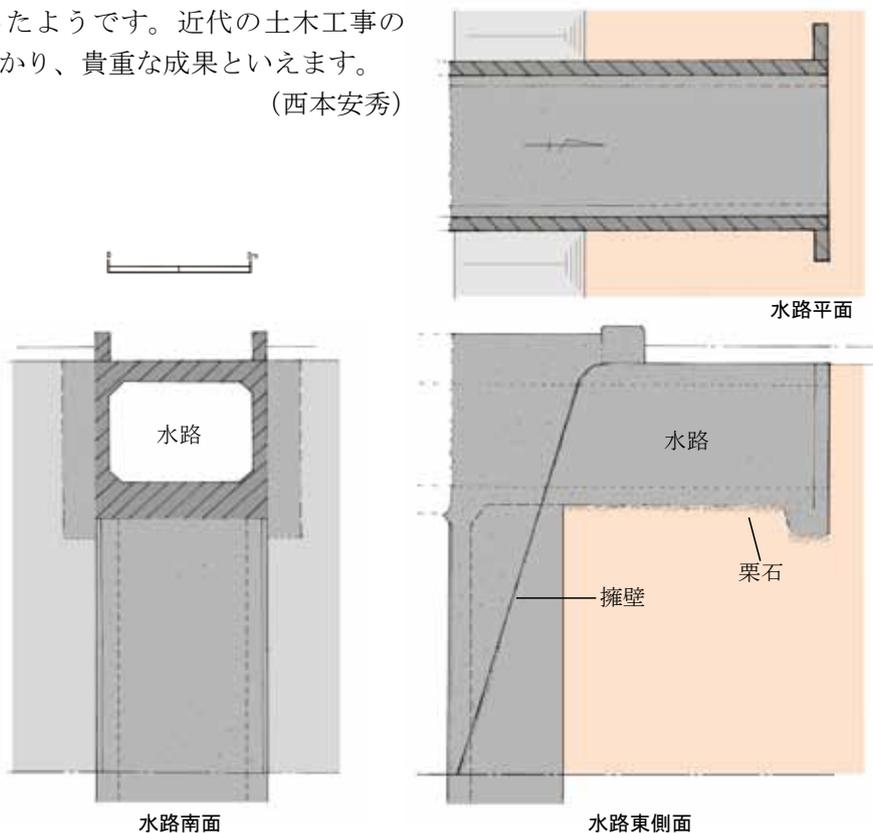
(西本安秀)



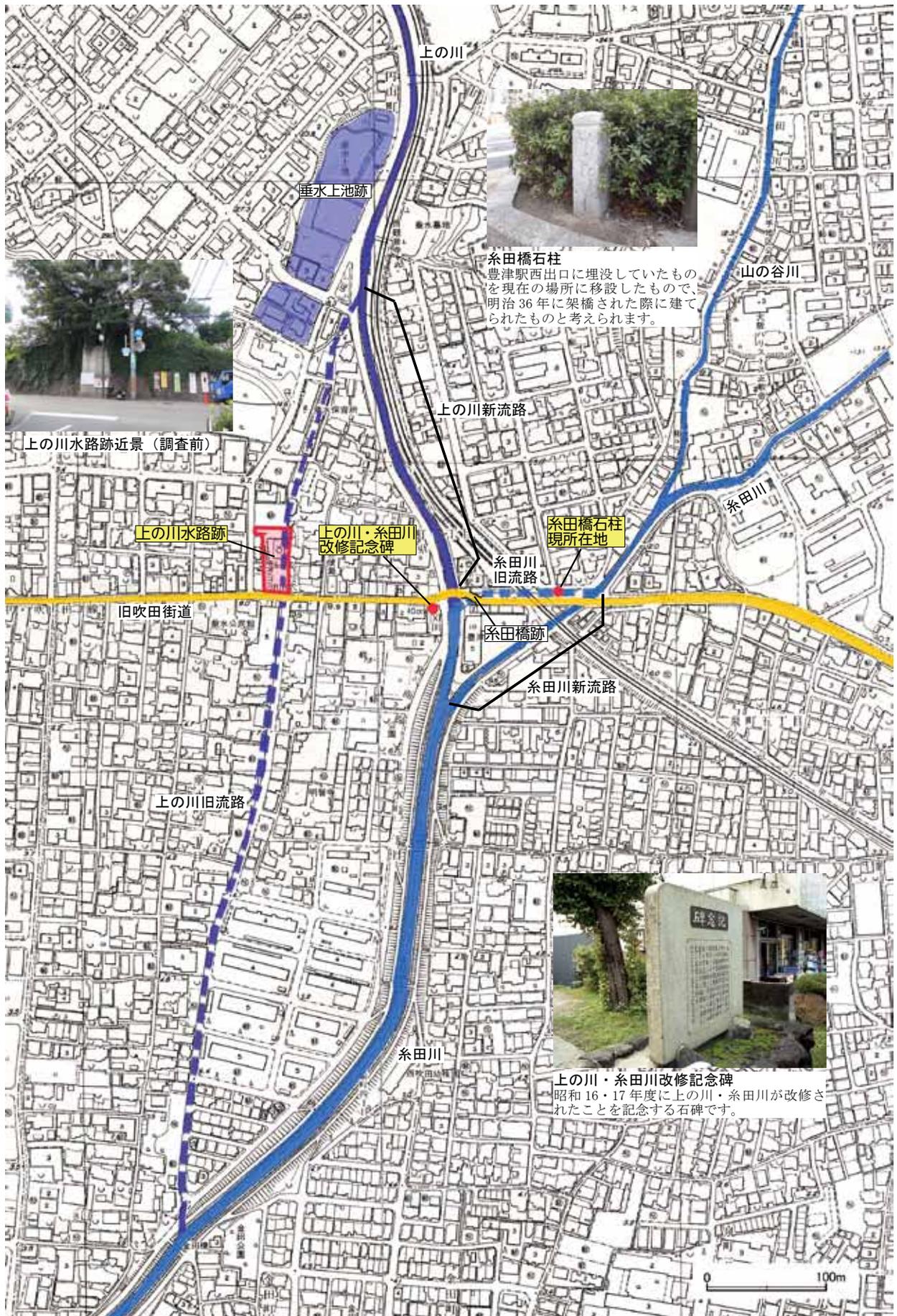
断面調査で確認された水路跡(北から)



水路跡近景(北東から)



水路跡平面及び立面図



上の川・糸田川改修関係図

## 【博物館】平成26年度特別企画「むかしのくらしと学校」

毎年、博学連携の一環として小学校3年生社会科単元「くらしのうつりかわり」の学習に合わせ、特別企画「むかしのくらしと学校」展を博物館ボランティアのみなさんのご協力を得て開催しています。展示は、電気やガス、水道がまだ普及していなかった頃の衣・食・住の道具

や学校の教材・写真などもパネルにして紹介しています。また、ちょっとむかしを体験していただく10のコーナーを用意しています。

土・日・祝日には子ども向けの関連イベントも開催しています。お楽しみいただければと思います。(福田 博)

### 関連イベント (◆親子体験講座◆)

#### 「おんぷひろばコンサート」

日時：平成27年2月1日(日)

午後1時30分～3時

内容：園児・小学生による歌とハンドベル  
鍵盤ハーモニカ等の演奏 女性コーラス  
「ゆきやこんこ」「まめまき」  
「大きな古時計」など

定員：先着120名

#### 「おひなさまを作って飾ろう」

日時：平成27年2月8日(日)

午前の部 10時～12時

午後の部 1時30分～3時30分

内容：竹筒、和紙、木材等を使って作ります。

定員：午前、午後の部とも15名

対象：小学生・中学生

申込：1月27日(火) 必着

#### 「大昔のアクセサリー～まがたま作り～」

日時：平成27年2月21日(土)

午前の部 10時～12時

午後の部 1時30分～3時30分

内容：ろう石を削ったり、磨いたりして大昔のアクセサリーまがたまを作ります。

定員：午前、午後の部とも20組

申込：2月9日(月) 必着

#### 「昔のあかりと火おこし体験」

日時：平成27年3月7日(土)

午前の部 10時～12時

午後の部 1時30分～3時30分

内容：ろうそく、行灯、石油ランプ等、昔のあかりを学習し、火打石やまいぎり等の火おこしを体験します。

定員：午前、午後の部とも20組

申込：2月21日(土) 必着

#### 「昔あそびとやさしいおもちゃ作り」

日時：平成27年3月15日(日)

午前の部 10時～12時

午後の部 1時30分～3時30分

内容：竹を素材とした昔ながらの遊び道具や牛乳パック等身近な材料を使ったおもちゃ作りをします。

定員：午前、午後の部とも30名

申込：3月3日(火) 必着

#### 「布ぞうり作り」

日時：平成27年3月21日(土・祝)

午前の部 10時～12時

午後の部 1時30分～3時30分

内容：古着等の布地を使って草履を作ります。

定員：午前、午後の部とも20組

対象：小学生以上(少し難しいので)

申込：3月9日(月) 必着

#### ■申込方法

はがき又はFAXにて、講座名、希望の時間帯、住所、参加者全員(付き添い含む)の氏名、学年、電話番号を書いて博物館まで。申し込み多数の場合は、抽選となります。

吹田市立博物館だより第60号

平成26(2014)年12月25日発行

発行 吹田市立博物館

〒564-0001 吹田市岸部北4丁目10番1号

TEL 06(6338)5500 FAX 06(6338)9886

ホームページ <http://www.suita.ed.jp/hak/index.html>

この冊子は、3,000部作成し、1部あたりの単価は24円です。